

各地からの たより

各地の取り組みを
ご紹介します

- 盛岡森林管理署
- 三陸中部森林管理署
- 山形森林管理署 最上支署
- 企画調整課

不法投棄防止クリーン活動

盛岡森林管理署

平成28年11月11日(金)、小雨が降る中、青森林業士木協会、矢巾町役場、盛岡森林管理署からの総勢30名で、岩手県紫波郡矢巾町南昌山国有林北の沢林道等において、「不法投棄防止クリーン活動」を行いました。

作業の実施にあたり、盛岡森林管理署長から「今回は地元から国有林野内等に不法投棄されたゴミの回収要望と青森林業士木協会のボランティア活動の要望とのマッチングにより実現した活動です。今回の活動が不法投棄を無くすための地域へのPRになればと考えていますので、安全作業をお願いします。」とあいさつがありました。

開会の後、不法投棄ゴミがある2箇所に分かれて作業を開始しました。



開会の挨拶



大型家電ゴミの一例

多くの山を転げ落ちて斜面の中段に不安定な状態で止まっているものが多く、一つひとつ安全を確認しながらロープで縛って、全員協力しながら道まで引き上げるなど、参加者の手際の良さもあって1時間ほどで作業は終了しました。



ロープでの引き上げ

ゴミは、一般家庭ゴミや大型家電ゴミ等多岐にわたり4トトラックで約2台分を回収しました。回収したゴミは矢巾町役場の協力を得て、清掃センターで処理していただきました。

実施にあたっては署の若手職員の活躍もありスムーズに無事終了することができ安心したところです。今後とも地域と連携して不法投棄防止モラルの向上のための取り組みを実施する必要があると考えています。

ついでに。

「第32回気仙スギまつり」が開催される

三陸中部森林管理署

平成28年10月30日に「第32回気仙スギまつり」が開催されました。気仙スギまつりは、気仙2市1町(大船渡市、陸前高田市、住田町)の持ち回りで実施しており、今年も住田町で開催されました。

気仙スギまつりは、気仙地域において生産される良質材の利用促進と、地域住民に森林・林業に対する理解を深めていただくために開催しています。当署では、木工細工教室と樹木あてクイズを企画することも、木工教室のスタッフとして合わせて7名の職員が参加しました。

木工細工教室は、輪切り材の台座にドリルやマツボックリなどをくっつけたり、絵を描いたりして、ネームプレートや壁掛けなど自分だけの作品を作るブースです。毎年来ている子供達もあり、熱心に思い思いの作品を作りあげていました。



慣れた手つきで作品作りに夢中

樹木あてクイズでは、約60名の参加者があり、10種類の樹木の木片と葉っぱのサンプルを見比べながら、真剣なまなざしで、解答用紙に入っています。



真剣に樹木を見つめる参加者

した。参加された人たちの約8割の方が満点となり、さすが「森林・林業日」の本一の町「だ」と感じました。

木工教室では、多くの親子連れが訪れ、スギ間伐材を使用した本棚、小物入れ、調味料置きを熱心に制作しており、用意した約70個がなくなるほどの盛況ぶりでした。

そのほかの森林組合等のブースでは、林業機械の試乗体験やペレットストーブの展示などがあり、会場は賑わっていました。

当署では、地域のまつりなどに参加することで木にふれあう機会を提供し、木や森林について考えていただけるような取組を今後も行っていきます。

大蔵小学校の生徒が銅山川地区民有林直轄地すべり防止工事を見学

山形森林管理署 最上支署

平成28年10月25日(火)に大蔵村立大蔵小学校5年生の生徒23名を対象に銅山川地区民有林直轄地すべり防止工事の見学会を行いました。この見学会は、地すべりと治山事業の関わりについて理解を深めてもらうことを目的に実施しました。

見学に先立ち、当支署職員が講師となり、大蔵村の地すべりの歴史や地質、今まで行ってきた地すべり防止工事について学習しました。事業地一帯は、約1万年前の



事前学習の様子

折火山の堆積物（シラス）が70m～100mの厚さで広く分布しており、融雪水や雨水をスポンジのように蓄えます。その下の泥岩層は水を通しにくく、シラス層との間にど

んどん水がたまり、その水が潤滑油のような働きをするため地すべりが発生します。生徒たちは、実際にシラスの細かい粒子の手触りや、硬い泥岩に水を吹きかけ、ぬるぬるとすべりやすくなる様子を観察し、地中の現象に想像を膨らませました。

見学では、地すべりの原因である地下水を排水するためのトンネルへ入坑しました。坑内では地下に溜まった水を鉛直方向に集める「落し込みボーリング」から、絶え間なく水が流れ出ている様子を観察し、生徒たちから「地下水が出なくなることはないのか」「自分たちは地中のどのあたりにいるのか」など質問が出ました。

地上部では、実際に落し込みボーリングを掘削している現場を



坑内を見学



地上での説明

の値段に驚いていました。

また、作業に従事している方から、「山が崩れることを連想させる、ねごまんま（汁かけごはん）をしない」「山の神が女性との言い伝えから、昔は坑内に女性が入れなかった」など、工事を安全に完成させるために担ぐ縁起の話など、トンネル工事ならではの話を聞くことができました。

見学を終えた生徒たちからは、村内の地下でこのような大きな工事が行われていたことに驚いたという感想が多く聞かれました。治山事業による安全・安心を理解していただくため、今後説明会や見学を継続して実施していきます。

平成28年度 第2回国有林モニター現地見学会を開催

企画調整課

林野庁では、国有林野の管理経営に国民の皆様のご意見・ご提案を役立てるため、「国有林モニター制度」を設けています。国有林モニターは2年に1度一般の方々を対象として公募し、2年間の任期中、資料提供やアンケートへの回答、現地見学会や会議での意見交換等を通じて、国有林野事業について理解を深めていただき、ご意見・ご提案をいただいています。東北森林管

理局においては、今年4月から2年間、管内5県にお住まいの34名の方に国有林モニターとしてご就任いただいています。

この度、国有林モニター活動の一環として、11月7日（木）に秋田森林管理署管内の国有林において、今年度2回目の国有林モニター現地見学会を開催しました。今回は、国有林野事業の根幹をなす「森林整備事業」をテーマとして、豊かな森林づくりに向けた造林、間伐、路網整備事業の取組について理解を深めていただき、ご意見等をいただくこととしました。平日にも関わらず18名のモニターの方がご参加くださいました。



電動刈払機による刈払実演

当日は、まず、秋田県大仙市内の国有林でスギの造林地を見学しました。現地

は、小学生の森林環境教育の一環として体験林業（保育作業）を実施した箇所、下刈作業を終えて、今後、除伐作業を行う造林地であることを説明した上で、職員が電動刈払機を使用して刈払の実演を行う様子を見学しました。

続いて、高性能林業機械を使用した間伐作業現場を見学しまし



高性能林業機械の説明

た。高性能林業機械（ハーベスタ、フェラーバンチャ）で、木を挿んで伐倒し、そのまま枝を払いながら丸太を生産する作業や、支障となる立木を伐倒しながら作業道を作設する様子を見学しました。



林業専用道の概要説明

最後に、秋田県秋田市内の国有林に移動し、丸太の運搬に重要な林業専用道を見学しました。路盤工に鉄鋼スラグを使用し、簡易舗装を行っていることや、木製構造物（ゲート、法枠、路肩ポール）を積極的に使用し、景観や環境にも配慮しながら路網を作設していることを職員が説明しました。

モニターの方からは、「国有林の現場では、伐倒の際、今回の見学地以外の場所でも高性能林業機械を使用しているのか」という質問が出され、「多くの現場で使用しているが、急峻な地形の場所や太い立木の場合はチェーンソーを使用する」と職員が回答するなど、活発な質疑応答が行われました。

また、モニターの方から、「実際に下刈や間伐の作業の様子を見ることが出来て有意義だった」、「機械を活用しながら、計画的に森林施業を行ってほしい」などのご意見・感想をいただき、今回の現地見学会を通して、東北森林管理局の豊かな森林づくり等について一層理解を深めていただけたのではないかと考えております。ご参加いただきましたモニターの皆様、ありがとうございました。